

# 新会長に土本俊和氏が就任

## 平成24年度・第20回総会開催

信州名匠会は6月29日、長野市の犀北館ホテルで第20回通常総会を開き、23年度の事業報告と24年度の事業計画などを決めた。総会の冒頭、宮本忠長会長のメッセージが紹介され、今年20周年を迎える「信州名匠会」の歴史と、今後への期待が、参加者に伝えられた。また、宮本会長の推薦により5代目会長に副会長の土本俊和氏（信州大学工学部建築学科教授）を選出。全会一致で承認した。宮本会長は、前会長の藤森照信氏とともに名誉会長に就任した。

今回のスリースター制度では、新たに31人を認定。総会後には土本新会長が「地域文化を発展させる職人技術」と題して講演した。



42名（懇親会には34名）が出席して開かれた総会



挨拶する降幡副会長。手前奥から土本新会長、顧問の馬場瑋造氏（建築情報システム研究所代表）、顧問の東孝紀氏（首都大学東京都市環境学部教授）

### 平成24年度 信州名匠会 年間スケジュール

#### 平成24年

- 6月29日(金) 第20回通常総会・講演会・懇親会(総務)
- 7月26日(木) 第1回研修会A(総務・会員)
- 8月29日(水) 第2回研修会B(事業・技術)
- 9月14日(金) 親睦スポーツ大会C(会員)
- 9月26日(水) 第3回研修会B(事業・技術)
- 10月24日(水) 第4回研修会A(総務・会員)
- 11月10日(土)～11月11日(日) 研修旅行A、B、C(事業・技術。協力:総務会員)
- 12月5日(水) 第5回研修会B(事業・技術)

#### 平成25年

- 1月23日(水) 新年会C(会員)
- 2月20日(水) 第6回研修会A(総務・会員)
- 3月27日(水) 第7回研修会B(事業・技術)
- 4月20日(土) 第8回研修会「制作教室」B(事業・技術)
- 5月22日(水) 第9回研修会A(総務・会員)
- 6月26日(水) 平成25年度通常総会(総務)

※研修会 場所:基本会場(株)宮本忠長建築設計事務所  
第2会場(株)降旗建築設計事務所  
時間:18:30～20:30  
委員会の企画内容により異なる場合があります。  
※研修内容・場所・日時については決定次第、順次お知らせいたします。

A 会員集会・委員会 B 学習・見学・実習  
C 交流 カッコ内は担当委員会

平成23年度通常総会 記念講演会

「地域文化を発展させる職人技術」  
～近年の文化財の動向を踏まえて～

■ 信州名匠会 新会長・信州大学工学部建築学科教授 土本 俊和氏

新会長に就任した土本氏は、ご専門の建築学の視点から、職人技術の重要性について語りかけた。要旨を紹介する。

近年、文化財の概念が国宝や重要文化財といった博物館の中の美術工芸品、いわば冷凍保存されたモノから、重要伝統的建造物群保存地区や文化的景観といった現在の生活を含む分野にまで広がり、それに伴って、地域の職人技術も注目されるようになった。

重要伝統的建造物群保存地区が選定されたのは、昭和50年。文化財保護法の改正によるもので、日本が高度経済成長期を迎え、街並みや古い建物がどんどん失われるようになったことが背景にある。また、平成8年には登録文化財制度



講演する土本俊和氏

ができ、この頃から「利活用」という言葉が徐々に使われ始めた。使うことで価値が高まり、保存状態もよくなるという考え方で、古い建物を商店や旅館などに使う例が見られるようになった。

建物を維持管理していくには、そこで暮らす人々の日々の努力が必要だし、古いものを生かしながら発展的に世の中を変えていくためには職人技術が欠かせない。善光寺を維持管理していくためにも、材料を吟味し、伝統的な技法や技術を使う職人、価値を見極める目利きとしての職人の存在が不可欠である。

文化財の概念がどんどん広がっていくことで、職人技術が必要とされる場面がますます増えている。そんな時代になっていくことが期待される。

(文責：栗原 直良)



プロジェクターを使い豊富な事例を紹介する土本氏

会員の動向 (平成23年6月～平成24年6月。敬称略)

■入会 個人会員 ■ 黒澤 忠 クロサワメタル株式会社 金物 〒386-1212 上田市富士山3658-4 電話0268-38-8505

■担当の変更 個人会員 ■ 有限会社中沢建具店 前任)中沢 英雄 新任)中沢 智

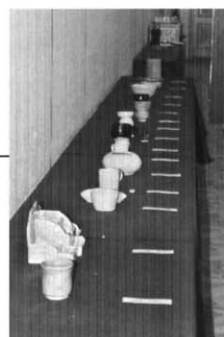
■担当の変更 賛助会員 ■ 株式会社岩野商会 前任)笹木 光治 新任)青木 秀一  
サンコー特機株式会社 前任)宮下 恒夫 新任)白石 大陸  
(株)本久 前任)竹内 光平 新任)荻原 弘司

■退会 個人会員 ■ 矢島 健二/大工 株式会社矢島工務店、今村 利夫/屋根板金 株式会社二見屋

雪しろ窯陶芸教室(平成23年度第8回研修会)力作が揃う

4月28日、「雪しろ窯」(上田市武石)にて恒例の陶芸教室が開かれ、会員のご家族など16名が参加し、村越先生、スタッフの方々によるマンツーマンの指導を受けながら、思い思い個性的に仕上がった作品が、総会で展示された。ろくろを使ったたくさん作品や、ユニークな大作に会員一同感心して鑑賞していた。

総会では、20周年の記念品として、村越氏が丹精込めて何回も試作を繰り返し完成した手作りのビール杯が、会員全員贈られた。氏が試行錯誤の末、ビールの泡が細かく、美味しいように工夫されて造られたことなどが紹介された。



総会の「陶芸アートギャラリー」に展示された力作の数々

# 二十ツ星2名、十八ツ星1名など33名の新認定者が誕生

## ～スリースター制度規認定者紹介～

「スリースター制度」は、月1回の定例研修会に熱心に参加している会員の努力をたがいに認めあい、その誇りを励みに日々の仕事を高めあおうと、平成11年に創設された。研修会へ1回出席することに1単位を加算し、10単位で星1つを与える。発足から12年を経て、今年度は二十ツ星認定者2名をはじめ一ツ星までの新規認定者33名(認定者総数68名)が誕生し、通常総会において認定証を授与された。貴重な研さんの場である定例研修会への、会員諸氏の精力的な参加に、ますます期待が高まっている。

### ◆「スリースター制度」平成23年度認定者

(平成24年6月現在、五十音順、敬称略。○は今年度の新規認定書授与者)

#### ☆☆☆二十ツ星2名☆☆☆

- 西澤嘉雄/(有)エヌ設計
- 坂田守夫/坂田工業(株)

#### ☆☆☆十八ツ星1名☆☆☆

- 堀誠/建築工房アカシヤ

#### ☆☆☆十四ツ星2名☆☆☆

- 五明良平/(株)五明
- 岸本貴志/(株)本久

#### ☆☆☆十三ツ星2名☆☆☆

- 高木茂実/松田産業・南信(株)
- 中村光敬/(有)中村木工所

#### ☆☆☆十二ツ星1名☆☆☆

- 吉田雅彦/(有)タジオスペースツー

#### ☆☆☆十一ツ星2名☆☆☆

- 高梨廣男/(有)高梨建築
- 西宮登喜男/(株)綿内瓦工業

#### ☆☆☆十ツ星3名☆☆☆

- 小川明/建築工房空
- 宮下恒夫(白石)/サンコー特機(株)
- 西澤 広智/(株)宮本忠長建築設計事務所

#### ☆☆☆九ツ星2名☆☆☆

- 増田幸雄/匠建設(株)
- 鎌倉良取/(株)鎌倉材木店

#### ☆☆☆八ツ星6名☆☆☆

- 山本耕平/長野サウナ販売(株)
- 犬飼栄治/(株)シナノ大理石
- 久保敏幸/(株)さつき苑
- 岩井秀樹/岩井工業(株)
- 竹内公夫/(株)ビホームテクノクリエート
- 鈴木隆/ルームデザインハウス

#### ☆☆☆七ツ星6名☆☆☆

- 佐藤満博/(株)二見屋
- 伊藤章/(有)アキ・プランニング
- 宮本忠長/(株)宮本忠長建築設計事務所
- 樋口豊/(株)ライフエンジニアリング
- 宮澤郁夫/宮澤建築
- 水沢仁亮/(株)二見屋

#### ☆☆☆六ツ星6名☆☆☆

- 内山保/朝陽工芸(有)
- 井内猛男/(株)井内工務店
- 宮川裕行/三ツ友建築企画
- 町田幸一/(株)町田電機商会
- 渡辺昌祺/渡辺硝子建材(株)
- 海野政也/(株)海野鉄筋工業所

#### ☆☆☆五ツ星3名☆☆☆

- 落合一視/落合コンサルタント
- 藤沢和裕/(株)山二
- 倉橋英太郎/(株)倉橋英太郎建築設計事務所

#### ☆☆☆四ツ星1名☆☆☆

- 大庭修/(株)トライアン

#### ☆☆☆三ツ星8名☆☆☆

- 左右田光/インテック左右田
- 降幡廣信/(株)降幡建築設計事務所
- 出澤潔/出澤潔建築設計事務所
- 村越久子/雪しろ窯
- 山崎邦男/山崎工務店
- 中村泉/(有)ビーイング
- 山田一忠/インテリア販売ヤマダ
- 山中袈裟嗣/山中桐箱店

#### ☆☆☆二ツ星14名☆☆☆

- 坂戸雄世/(有)サカト産業
- 荒井和夫/(株)荒井造園
- 松木和善/(株)山翠舎
- 山崎慎一郎/(有)山崎屋木工製作所
- 長澤和芳/(株)角藤 長野本部
- 小山巧/(株)田澤工務店
- 関克弘/坂田工業(株)
- 常田亀久夫/(株)菅平土建
- 鳥羽英夫/長野サウナ販売(株)
- 小林清英/(株)清蘭堂
- 藤田勇/藤田建築
- 中沢英雄/(有)中沢建具店

#### ☆☆☆一ツ星9名☆☆☆

- 青木秀一/(株)岩野商会
- 山口真一郎/(株)サンワ
- 木下豊/文屋
- 松下重雄/(有)みすゞ設計
- 唐澤尚生/(株)宮本忠長建築設計事務所
- 前島浅男/大工
- 風間洋二/(株)角藤
- 東出輝彦/ステンドグラス作家
- 中島重雄/中島建築

## 平成23年度 信州名匠会 事業報告 (人数は参加者)

### 平成23年

- 6月29日(水) 第19回通常総会・講演会・懇親会  
「たぐみ」No.028 夏号 発行
- 7月27日(水) 第1回研修会 委員会・会員集会 20名
- 8月27日(土) 第2回研修会 「小布施まち並みウォッチング」 32名
- 9月21日(水) 親睦ゴルフ大会 菅平グリーンゴルフ 16名
- 9月24日(土) 第3回研修会 「長野市立博物館」見学会  
—長野市立博物館のできるまで— 30名
- 10月26日(水) 平成23年度 第一回理事会  
「平成23年度研修旅行について」 12名
- 10月29日(土) 第4回研修会 「千曲市森將軍塚古墳館」見学会 25名
- 11月12日(土)～11月13日(日)  
研修旅行 「伊勢神宮を訪ねて」 33名
- 12月17日(土) 第5回研修会  
「明治の洋風建築」旧開智学校と山辺学校見学会 20名

### 平成24年

- 1月18日(水) 新年会 ホテル犀北館 35名
- 1月18日(水) 「たぐみ」No.029 初春号 発行
- 2月23日(木) 第6回研修会「ものづくりにおいて大切にしていること」21名
- 3月24日(土) 第7回研修会 「現代・明治の学校建築」  
—御代田中学校・旧中込学校— 19名
- 4月18日(金) 平成23年度 第二回理事会  
「平成24年度信州名匠会総会について」 13名
- 4月28日(土) 第8回研修会 「陶芸教室」 16名

## 懇親ゴルフコンペ 落合一視さんが優勝

身体を動かし会員同士の親睦はかる恒例の懇親ゴルフコンペが、9月14日、14名が参加して、久しぶりに長野カントリークラブで行われました。当日は快晴、絶好のゴルフ日和。今年は9月というのに、標高の高い飯綱高原でも真夏のような暑さでしたが、さすが高原を吹く風は心地よく、仕事を忘れ一日和やかにプレーを楽しみました。

落合一視さんが、グロス85でベスグロという素晴らしいスコアで見事優勝されました。

参加者はつぎの通りです(敬称略、順不同)。

坂田守夫/坂田工業(株)、内山保/朝日工芸(有)、西宮登喜男/(株)綿内瓦工業、大日方幸生/(株)本久、五明良平/(株)五明、黒澤忠/クロサワメタル(株)、落合一視/落合コンサルタント、高木茂美/松田・南信(株)、水沢仁亮/(株)二見屋、山田一忠/インテリア販売山田、吉田雅彦/(有)スタジオスペースツー、西澤広智/(株)宮本忠長建築設計事務所、鎌倉良収/(株)鎌倉木材店、北澤徹/(有)北澤ステンレス工業



# 定例研修会●Report

(平成24年5月～10月)

## 平成23年度第9回研修会 【山ノ内(神林・渋温泉)の 建物をたずねて】

5月19日(土)

講師：鈴木幸野氏(山ノ内町立志賀高原ロマン美術館学芸員)

参加者：16名

### 雪国の自然・歴史・文化に育まれた建築物を体感



志賀高原ロマン美術館。吹抜けの展示室には12体の円錐形の展示ケースがある。

神林・渋温泉の建築物・ものづくりを体感する趣旨で、志賀高原ロマン美術館、豪雪の館、玉村本店を訪れた。

志賀高原ロマン美術館は、1998年に開かれた長野冬季オリンピックの開催を記念して建てられた。設計は黒川紀章氏。楕円形の美術館棟と円錐形のレストラン棟で構成され、美術館棟は、高さ15mの吹抜けのホール、展示室を中心にその周囲を展示室が囲んでいる。外観は、コンクリートにチタンチップが組み込みこんで表情をつけ、背景の山々に調和しながらもシンボリックな意匠としている。

豪雪の館は、生活道具などを展示する民俗資料館である。豪雪地帯である新潟県松の山にあった築約170年の豪農の館を移築・復元した。内部の太い丸太の小屋組の豪快さ・巧みさに魅了され、民家のもつ力強い空間に参加者みんなが見入っていた。

玉村本店は、創業約200年の歴史を持つ蔵元である。約100年前に建築された酒蔵を改修しギャラリーとしても一般開放している。今回は、店主・佐藤喜惣治氏の御好意のもと住宅母屋も見学させていただいた。天井が非常に高く豪雪地とは思えないほど開放的(柱間が飛んでいる)なプランで、この当時の木造建築の技術の高さと工夫に驚かされた。



豪雪の館1階居間。小屋組が見事

建築を通して当地の歴史・文化を知り、ものづくりの奥深さを感じる研修会になった。(文：中山貴史)

## 平成24年度【第1回研修会】

7月26日(木)

講師：川上 恵一氏(信州名匠会会員、かわかみ建築設

参加者：21名 計室所長、JIA長野県クラブ会長)

### 「民芸に学ぶ家づくり」～その技と心～

川上氏は家づくりを考えると、民芸運動の創始者、柳



宗悦の思想に思いを馳せると話す。名も無き職人の手仕事に価値を見出すこと、それは「己を殺す」ことと言う。ともすると作家性に憧れ、名前を残すことを良しとしてしまう。

そんな風潮に氏は、「皆と同じ技術を習得して始めて一人前」と釘を刺し、「己を殺すことが己を表現することにつながる」とした。

また、古民家を再生する際は、「ただ思い出だけで残すのではなく、地域に学びつつ、新しい時代をどう読み取り、それをどう生かすかが重要」として、「その時に職人さんの力が欠かせない」と訴えた。

川上氏は信州の民家を、①茅葺き寄せ棟造り②本棟づくり(ハフヤ、ヨコヤ)③蚕室造り(養蚕農家住宅)④蔵造り(置屋根式、建てぐるみ)⑤出し梁造り(主に街道沿いの町家)⑥洋館(郵便局、病院、ハイカラ住宅)一の6種類に分類する。これらの民家は寒さや使いづらさ、手入れが大変など、一見不合理な点があるものの、地域の材料を使い、不便さがかえって信州人の健康を育んだり、人づくりやまちづくり、文化を培ってきたと説明。信州の家づくりのポイントとして、①地域に特有の形を生かす②地域の材料(木材・石・土など)を使う③地域の職人の手仕事を大切に④現代の生活にマッチした間取り・デザインを挙げた。(文：栗原 直良)

## 平成24年度第2回研修会 【県産材木製サッシ、県内で生産山崎屋木工製作所を見学】

8月29日(水)

講師：山崎慎一郎氏

(信州名匠会会員、(株)山崎屋木工製作所代表取締役)

竹内 港

(株)山崎屋木工製作所 プロジェクトリーダー)

参加者：21名

### 長野県産のヒノキやカラマツを建材に活用

同社は、長野県産のヒノキやカラマツを使った高性能断熱木製サッシの量産化に向けて取り組み、県産材の新たな用途として注目を集めている。

SCM社(イタリア)製のCNCマシンが実際に窓を削り出す様子を見学。開き窓と引き窓を製品化する計画で、開き窓はトリプルガラスで熱貫流率1.0W/m<sup>2</sup>・Kを目標に、引き窓は同じく1.7W/m<sup>2</sup>・Kを目標に設定しているという。

木は、アルミや樹脂より断熱性能が高く、高品質であるとともに、使用するヒノキやカラマツを信州の木認証製品工場から納入することで、森林県「長野」で育った木を使い、林業や製材業の活性化にも貢献しようとの思いがあるという。

見学後、今年の3月にドイツのニュルンベルグにて開催された「フェンスター・バウ」(窓、開口部の国際展示会)の様子を山崎氏に、4月にイタリアのミラノにて開催された「ミラノ



サローネ」の様子を竹内氏に、それぞれ写真を見ながら説明していただいた。

同社の木製サッシは、昨年10月に建材試験センター(草加市)で試験

を行い、11月には「ジャパンホームショー2012」にも出展。25年度は、木製サッシの「防火認定」を取得する予定という。地域の取り組みが世界のサッシ・インテリアデザインの動きにつながり得る、「グローバル」を感じさせる有意義なひとときとなった。(文:栗原 直良)

## 平成24年度 第3回研修会 【民家再生見学会「職人の技とところ」】

9月29日(土)

講師:川上 恵一氏(信州名匠会会員、かわかみ建築設計室所長、JIA長野県クラブ会長)

参加者:21名

### 古民家の趣を残しながら現代の生活に合う住宅に甦えらせる

川上 恵一氏に、民家再生の現場を2件見学させていただいた。施主や棟梁の貴重な話をお聞きすることができた。



【穂高の見世蔵】築100年以上の見世蔵を再生した住宅。川上氏は「古いものは懐かしがるだけでなく、現代に相応しいものにする必要がある」と話し、既存の見世蔵の造りをどう生かし再生したのか、再生する際の苦労した点も含め住宅内を見学しながら説明して下さった。残したところと、変えたところ。新旧が自然に組み合わせ、古民家の趣、雰囲気を残しながらも現代の生活に合う住宅に甦っていた。

【松本平の本棟造り】本棟造りの民家再生現場。建設中のまだ塗装されていない材を見ると、新材と古材が混在していることがよくわかる。長年使われた木材はねじれや白蟻の被害など問題を抱えている。建てられた時代、地域によって使われる材も造りも異なる。それを補うのが新材であり、職人の技術、知識である。古材を利用することは簡単なことではない。それでも古材を使うことで、これまで使われてきた民家と家族の歴史と思いを残していくことが大事だという。

古民家の改修は、機能的にも経済的にも課題はあるが、生産性だけが価値ではない。「手間」や「職人の技術」といった付加価値を見直していく必要性を感じた。(文:宮本忠長 建築設計事務所 中村明穂)



松本平の本棟造り。2階が個室に蘇る。格子が美しい

## 平成24年度 第4回研修会 【「祈りのかたち」宮入小左衛門行平作品展】

10月24日(水)

講師:川上 恵一氏(信州名匠会会員、かわかみ建築設計室所長、JIA長野県クラブ会長)

参加者:26名

### 作刀の真髄を聴く

坂城町の鉄の展示館開館10周年記念の「祈りのかたち」という宮入小左衛門行平作品展にあわせて、宮入氏一門の河内一平氏に宮入氏の作品解説と講演をしていただいた。河内氏は平成12年から宮入氏に入門し、17年に作刀承認を受け、同年新作刀展覧会に入賞。現在は独立して自身の鍛錬場をお持ちである。



宮入氏が行平を名乗る前の初期の作品から、高倉健さんの紫綬褒章受章記念の守り刀、最近の作品までを展示されていた。河内氏の丁寧な解説から宮入氏の作刀における気持ちや造形的な視点など、普段では窺い知ることのない話を聞くことができた。地金や波紋の美しさ・どんな姿に作るのか、出来栄をイメージしながらそのかたちに仕上げていく技術など、宮入氏の実際の作刀をそばで見えてきた河内氏ならではの話により、刀をつくる情景が浮かんでくるようだった。

講演では刀のつくり方の基本から、作る際の刀匠の思いなどを語っていただき、会員の質問にも快くお答えくださった。刀は昔、兵器であったが、今に残る古いものは美術品として



講演する河内一平氏 委員会 小川明)

大名家に残されたものが多い。現代の刀は、美術品として手にする方への贈り手と創り手の思いをのせる神聖なもののように感じた。創り手として仕事に心を込める美しさを改めて感じさせられた。私たちもそんな気持ちで仕事に向かいたいものだ。(文:会員

## 【サンコー特機(株) 宮下恒夫さん ご逝去】

信州名匠会の賛助会員でサンコー特機(株)代表取締役の宮下恒夫氏が6月18日、ご逝去されました。享年72歳。昭和49(1974)年に独立して創業。国宝・重要文化財の防災システムの施工、維持管理を担当するなど、消防設備工事の先導的な役割を果たしてこられました。(社)県消防設備協会副会長として業界をリードされ、ほからかなお人柄で、信州名匠会の活動にも多大な貢献をしてくださりました。心よりご冥福をお祈りいたします。



講演する河内一平氏